

本県の国選択無形民俗文化財の概要

○ 若狭能倉座の神事能

・保持団体 若狭能倉座（代表 福谷喜義）

・所在地 福井県三方上中郡若狭町

・特徴 倉座は室町時代に台頭し、特に領主の酒井氏の保護を受け、この地での代表的な座となった。江戸時代末期には領主の保護は薄くなるが、神事能としての古式を保ち、若狭一円を中心に勢力を広げるようになった。

旧若狭国に伝承されてきた若狭猿楽のうち、倉座による伝承が行われており、大和猿楽を源流とする能とは異なる芸系が残されている。こうした芸系が残されているのは、全国で若狭能倉座だけであるとも考えられ、希少な事例である。また、「一人翁」等独自の伝承を有する点においても、芸能の変遷の過程や地域的特色を示しており貴重である。

倉座の重要な演目として「一人翁」があり、単独奉納のほか、能を伴う場合にも必ず初番に舞われる。太夫と面箱持の二人のみで演じるもので、囃子も加わらない。翁を舞うのは太夫のみに限られ、太夫は上演に先立ち水垢離などの精進潔斎を行って舞台に立つ。このように神聖視される翁は、若狭地方の住民が祈願を行う際に奉納を依頼することもある。

伝承されている演目は、はごろも やまんぼ かきつばた もみじがり
松風、岩船、猩々、右近、玉鬘、吉野天人等が上演
可能で、伝承の歴史の中で観世流の影響を受けつつも、異なる型が随所に見られるなど、独自の伝承を有している。

能は一人翁にはじまり、じんぎもの しゅらもの かざらもの
げんざいもの おにももの
現在物、鬼物の五番と狂言一番以上の能を上演することを原則とする。新穀の豊穰を祈願して寺社に奉納するものを「風祈能」、大漁を祈願して奉納するものは「海上

安全能」と呼ぶ。

若狭能倉座は能楽が大成に至る変遷の過程を知るうえで重要な位置づけを持っている。

能の様子（写真の演目は「一人翁」）



能の様子（写真の演目は「岩船」）

